

医学教育分野別評価 浜松医科大学医学部医学科 年次報告書 2021年度

医学教育分野別評価の受審 2019（令和元）年度
受審時の医学教育分野別評価基準日本版 Ver. 2. 2
本年次報告書における医学教育分野別評価基準日本版 Ver. 2. 33

はじめに

本学医学部医学科は、令和元年に日本医学教育評価機構による医学教育分野別評価を受審し、令和3年2月1日より7年間の認定期間が開始した。医学教育分野別評価基準日本版Ver. 2. 33を踏まえ、令和2年度の年次報告書を提出する。なお、本年次報告書に記載した教育活動は、日本医学教育評価機構の作成要項に則り、令和元年11月24日～令和3年3月31日を対象としている。また、重要な改訂のあった項目を除き、医学教育分野別評価基準日本版Ver. 2. 33の転記は省略した。

2. 教育プログラム

2.2 科学的方法

基本的水準

改善のための助言

- ・ 批判的思考、EBMを6年間にわたりらせん型かつ系統的に教育すべきである。
- ・ EBMに基づいた臨床実習教育を充実すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

令和3年度から新カリキュラムに改定され、EBMは6年一貫らせん型カリキュラムを構築した。併せて、6年間のロードマップも作成した。

改善状況を示す根拠資料

資料01 令和3年度カリキュラム

資料02 EBMロードマップ

2.4 行動科学と社会医学、医療倫理学と医療法学

基本的水準

改善のための助言

- ・ 行動科学について6年間にわたり、らせん型かつ系統的に教育すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

令和3年度から新カリキュラムに改定され、行動科学は6年一貫らせん型カリキュラムを構築した。併せて、6年間のロードマップも作成した。

改善状況を示す根拠資料

資料01 令和3年度カリキュラム

資料03 行動科学ロードマップ

2.5 臨床医学と技能

基本的水準

改善のための助言

・重要な診療科である、内科、外科、小児科、産婦人科、精神科、総合診療科／家庭医学の臨床実習期間を十分に確保すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

平成28年度に改定された現在の臨床実習においては、重要な診療科の臨床実習期間を十分に確保したカリキュラムに改定されている。

改善状況を示す根拠資料

資料04 平成28年度カリキュラム

2.6 教育プログラムの構造、構成と教育期間

質的向上のための水準

改善のための示唆

- ・基礎医学カリキュラムにおいて、学生の学びやすさの視点から教育内容の順次性を検討することが望まれる。
- ・臨床医学を理解し実践するための基礎医学、行動科学および社会医学の視点でカリキュラムの垂直的統合をさらに推進することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

令和3年度から新カリキュラムに改定され、基礎医学の順次性と期間を検討し学生が学びやすい構造とした。

令和3年度から新カリキュラムに改定され、行動科学は6年一貫らせん型カリキュラムを構築した。併せて、6年間のロードマップも作成した。

改善状況を示す根拠資料

資料01 令和3年度カリキュラム

資料03 行動科学ロードマップ

2.8 臨床実践と医療制度の連携

質的向上のための水準

改善のための示唆

- ・卒業生が働く職場からの情報を得て、教育プログラムを適切に改良することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

卒業生の研修先上司に対して学修成果（ディプロマ・ポリシーに基づく達成度）に関するアンケート調査を実施した。アンケート調査の結果をカリキュラム評価委員会で分析し、カリキュラム委員会にフィードバックを行う予定である。

改善状況を示す根拠資料

資料05 令和2年度 医学科学修成果に関する卒業生研修先上司アンケート調査結果報告書

3. 学生の評価

3.1 評価方法

基本的水準

改善のための助言

- ・基礎医学の試験や卒業試験等の実施において、学修効果を高めるために組織的に試験の日程を調整すべきである。

- ・知識だけでなく、技能および態度を確実に評価すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

令和3年度の卒業試験では、学生が試験勉強に集中できるような日程に改定した。

令和3年度からのカリキュラムでは、基礎医学の開講期間を2年間（2～3年次）から3年間（1～3年次）に長くしたことにより各科目の試験日程の間隔が長くなり、試験に集中できるように期間を長くした。

臨床実習中の技能を確実に評価する目的で、ポートフォリオおよび臨床実習の手引きに記載していた医療行為の水準に関する記載を、前川レポート（1991年）に基づいた内容から、全国医学部長病院長会議報告書（2015年）に基づいた記載に変更した。ポートフォリオを用いて技能と態度の評価を行っているが、評価の標準化についての課題などが存在するため、今後検討する。

改善状況を示す根拠資料

資料01 令和3年度カリキュラム

資料02 EBMロードマップ

資料03 行動科学ロードマップ

5. 教員

5.1 募集と選抜方針

基本的水準

改善のための助言

・教員の募集と選抜方針を策定し、そのポリシーに医学と医学以外の教員間のバランス、常勤および非常勤の教員間のバランス、教員と一般職員間のバランスを含め、適切にカリキュラムを実施するために求められる基礎医学、行動科学、社会医学、臨床医学の教員のタイプ、責任、バランスを概説し、教育、研究、診療の役割のバランスを含め、学術的、教育的、および臨床的な業績の判定水準を明示し、その活動をモニタすることを規定すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

教員の募集と選抜方針について、教員候補者選考委員会において、教員の職務内容に応じた選考の基準（資格）や方法（手術見学、公開セミナー、公開授業）を検討し、それに基づき選考を行った。また、教員以外の職員も含めた採用や評価等に関する大学としての方針を「人事の基本方針」として新たに制定した。

さらに、行動科学の6年間にわたるらせん型教育を実施するため、心理学の専任教員を教授（令和2年度准教授から昇任）及び特任助教（平成30年度採用）の2名体制とした。また、令和3年度から適用する新カリキュラムにおける医学英語教育の充実を図るため、令和2年度中に外国人教員を新たに3名（准教授1名、特任講師1名、特任助教1名）採用した。

活動のモニタについては、新たに構築した教員評価制度に基づき評価を実施した。また、教員評価を実施するにあたり新たに稼働を開始した教員業績管理システムにより、これまで以上にリアルタイムな活動のモニタを行った。令和3年度から適用される新カリキュラムの実施に当たり必要な教員配置について、継続的に調査・分析を行い適切な選考及び配置を行う。

改善状況を示す根拠資料

資料06 教員選考の基本的な方針

資料07 人事の基本方針

資料08 教員評価実施規程

資料09 教員評価項目・配点一覧

資料10 心理学、英語の教員配置表

6. 教育資源

6.2 臨床実習の資源

基本的水準

改善のための助言

- ・学内外の臨床実習指導者に対して、指導法や評価に関するFDを充実すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

Web等の利用により合計14回のFD講演会を実施した。

改善状況を示す根拠資料

資料12 令和2年度FD講演

6.3 情報通信技術

質的向上のための水準

改善のための示唆

- ・診療参加型臨床実習を充実させるために、学生が電子カルテを活用しやすい環境を整備することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

電子カルテシステムに連動させた文書ファイルに学生が記載する「カルテ学生記載システム」を導入し、2020年度よりトライアルを開始した。トライアルの結果、操作端末の不足が課題となったため、病棟への追加配備・学生用PCルームの整備を予定する。

改善状況を示す根拠資料

資料13 第1回から第3回カルテ学生記載システムWG議事メモ

7. 教育プログラム評価

7.2 教員と学生からのフィードバック

基本的水準

改善のための助言

- ・教員と学生からのフィードバックを系統的に求め、分析し、対応すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

医学科6年次生に対してコンピテンシー（学修到達目標）に関する自己評価アンケート調査を実施した。アンケート調査の結果をカリキュラム評価委員会で分析し、カリキュラム委員会にフィードバックを行う予定である。

改善状況を示す根拠資料

資料14 令和2年度 コンピテンシー（学修到達目標）に関する自己評価アンケート調査結果報告書

7.3 学生と卒業生の実績

質的向上のための水準

改善のための示唆

- ・学生の学修成果の達成に関するデータを収集し、その分析結果を入試委員会、カリキュラム委員会、および学生支援に関する委員会にフィードバックすることが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

学生等の関係者に対し、定期的かつ体系的にアンケート等を実施するため、「学生等に対する意見聴取実施に関する申合せ」を新たに制定した。「学生等に対する意見聴取実施に関する申合せ」に基づき、定期的に関係者にアンケートを実施し、その結果を分析して関係する委員会にフィードバックする。

改善状況を示す根拠資料

資料15 学生等に対する意見聴取実施に関する申合せ